



大飯原子力発電所再稼働に関する エネルギー問題についてのアピール

核のない「平和な世界」の実現のために

YMCAは世界 125 の国と地域での活動を通し、日々、世界の人びとと共に平和の実現に努めています。

“核の平和利用”の名で進められた原発政策ではありましたが、福島第一原子力発電所の事故以降、科学技術への過信、経済優先の安全神話であったことがあらわとなりました。唯一の被爆国であり、またアジア・太平洋地域の歴史的責任を認識する日本のYMCAは、核兵器廃絶はもとより、原子力発電に依存しない社会の実現をいま改めて願っています。

福島の子どもたちとの出会い

私たちは、ひとたび放射性物質の拡散が起これば、取り返しのつかない事態となることを思い知らされました。事故後、YMCAは全国各地でのフレンドシップキャンプを通して、およそ 2,500 人の福島県を中心とする子どもたちと出会うことができました。

かけがえのない成長期に十分な外遊びができず豊かな自然に触れることができないことによる、子どもたちの心身の深刻なストレス、また子を見守る保護者の先の見えない不安にも深く触れました。私たちは、この出会った福島の人たちにできる限りこれからも責任をもって関わりたいと願います。子どもいのちと成長を脅かす政策に加担し、福島の人たちをさらなる差別や疎外に追い込むことはできません。

いのちをつなぐ、持続可能な社会の担い手育成

YMCAは東日本大震災復興支援活動を通して、新しい社会の創出とその担い手の育成を進めています。いのちをつなぐ持続可能な社会に向けて、一人ひとりが自らの生き方を問い直し、環境に配慮した再生エネルギーの取り組みや日々の生活を見直し、智恵と祈りを合わせ、共に行動します。そのためには、これらの課題についてまず若者が語り合える機会を積極的に作り出すことから始めます。

現状では、まだ検証、そして議論も十分尽くされておらず、これからの社会の担い手である若者も意思決定に参画できていないとは思えません。

私たちは大飯原子力発電所再稼働表明に対し、強く遺憾の意を表明し、他の原子力発電所も再稼働することのないよう、切に求めます。

2012年6月16日

第122回日本YMCA同盟委員会・第一回日本YMCA同盟協議会 出席者有志